

平成18年9月28日

3号機使用済燃料プール内で発見されたテープ片の回収結果について

当所3号機は定格熱出力一定運転中ですが、平成18年8月23日午後2時40分頃、IAEA^{*1}査察のために使用済燃料プール内に保管されているMOX燃料^{*2}1体をプール内で移動していたところ、当該燃料集合体の下部にテープ片らしきものが1枚付着していることを目視にて発見いたしました。（[平成18年8月23日お知らせ済み](#)）

その後、回収作業を行い、ゴム製のテープ片（長さ約11cm×幅約2cm）を回収いたしました。

調査の結果、当該テープ片は燃料交換機などを点検する際、電気ケーブル接続部の絶縁処理に使用されていることがわかりました。また、テープ片は硬化しており、クラッド^{*3}が付着していること、平成11年以降は異物混入防止対策を徹底していることから、当該テープ片は平成11年以前に使用済燃料プールに混入し、当該燃料集合体の下部に付着したものと推定いたしました。

今回の対応として、MOX燃料保管エリアの下部について、清掃を実施いたします。

また、引き続き異物混入防止対策を徹底してまいります。

以上

*1 IAEA

原子力の平和利用を通じて世界の平和と健康と繁栄に貢献することを目的に設立された国際機関であり、原子力が軍事目的に利用されないための保障措置の一環として原子力発電所における燃料の査察などを行っている。

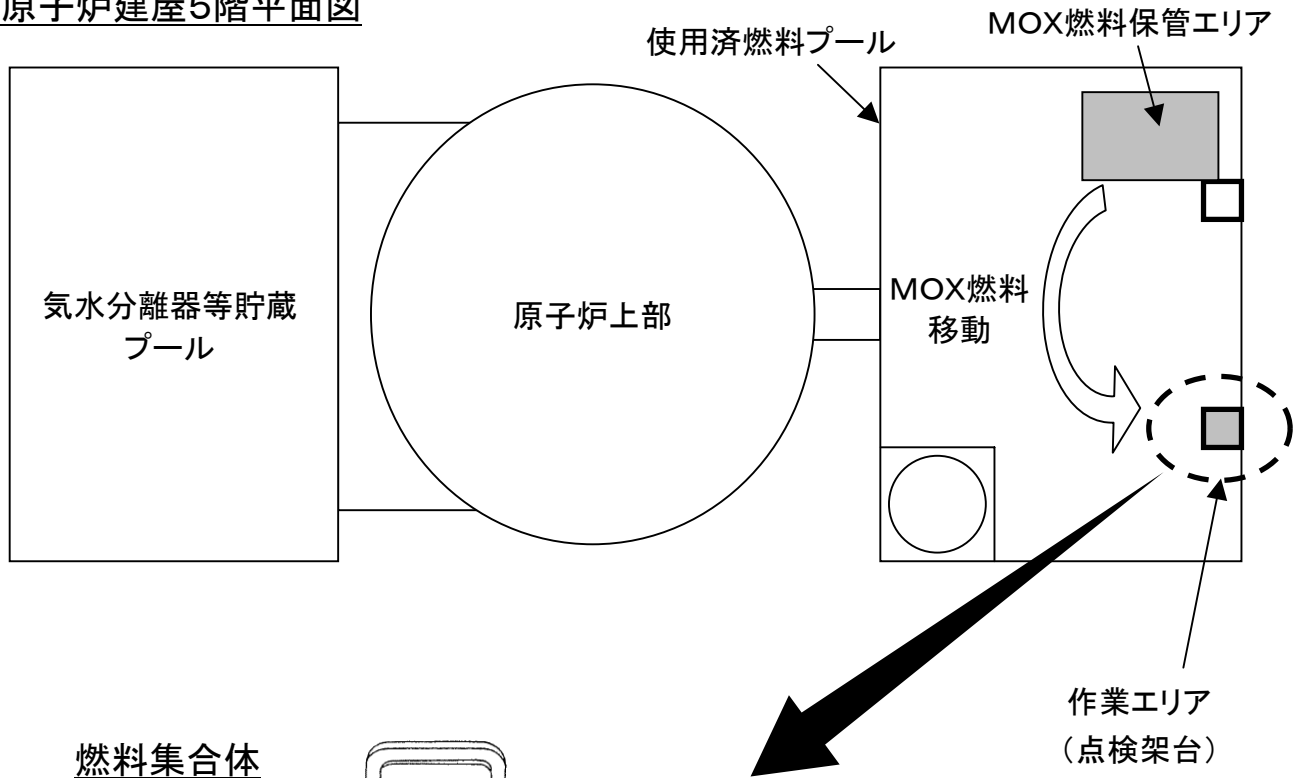
*2 MOX燃料

ウランと使用済燃料から取り出したプルトニウムを混ぜて作った燃料。

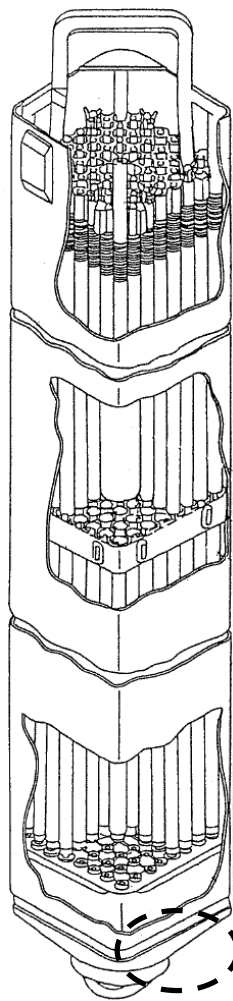
*3 クラッド

鉄サビ等金属不純物などの不溶解性物質。

原子炉建屋5階平面図



燃料集合体



回収したテープ片
(長さ約11cm×幅約2cm)

テープ片発見箇所

3号機使用済燃料プールでのテープ片発見・回収概略図